

11. 2022年度日本数学会賞春季賞、 出版賞の授賞について

【春季賞】

日本数学会賞受賞候補者選考委員会からの選考結果報告に基づき、春季賞は埼玉大学大学院理工学研究科の **Neal Bez 氏** に授賞されました。授賞理由は、

‘幾何解析および偏微分方程式論における不等式の研究’

(英訳：Study of inequalities in geometric analysis and partial differential equations) に関する業績です。また、3月29日に埼玉大学において授賞式並びに同氏による ‘Brascamp-Lieb の不等式の安定性’ と題する受賞記念総合講演が行われ、オンライン配信されました。

【出版賞】

出版賞選考委員会からの受賞候補者選考結果報告に基づき、出版賞はつぎの方々に授賞されました。授賞式は3月29日に埼玉大学において行われ、オンライン配信されました。

加藤 十吉氏

授賞理由：氏は位相空間、位相幾何学に関する良書を多数著し、数学を専門とする学部生、大学院生の教育・研究に多大な貢献をした。「集合と位相」は直感と結びつけながら無限と連続について理解を深めることを意図して著された教科書であり、見通しの良い明確な文章で書かれている。「位相幾何学」は線型代数以外の予備知識を仮定せずに読めるように構成されているが、単体的複体のホモロジー論にとどまらず特異ホモロジー論についても詳しく扱っており、さらに当時最先端であった研究対象の記述においても他の和書にはない特徴を持った書籍となっている。ここで挙げた2点以外にも「トポロジー」、「組合せ位相幾何学」を著したほか「トポロジー入門」(クゼ・コスニオフスキ著)を翻訳するなど数学の教育・研究に寄与しており、その功績は出版賞に相応しいものである。

「紀伊國屋数学叢書」 (株式会社紀伊國屋書店 刊行)

授賞理由：編集委員伊藤清三、戸田宏、永田雅宜、飛田武幸、吉沢尚明の各氏のもと、1974年から94年にかけて全33巻計35冊刊行された本叢書は、「現代数学の発展にとって重要であり、また既刊書で必ずしも重点が置かれていない」テーマを選ぶという方針のもと、一流の数学者によって執筆された。このような編集方針は実に先駆的なものであり、出版された当時の最先端の成果の解説を含んだ各巻はオリジナリティが高く、現在まで活用され続けている。高水準で類を見ない本叢書は出版賞に相応しいものである。株式会社紀伊國屋書店におかれましては、本叢書刊行に比肩しうる貢献を継続していただくことを願いつつ、本叢書を現在もオンデマンド版として提供し続けていることに敬意を表したい。